佐沼中学校　美術科通信　NO.1

「美術の力で、登米市の未来をつくる」

◆ イオンタウン佐沼　美術作品展　開催しました！　2026年3月15日～22日

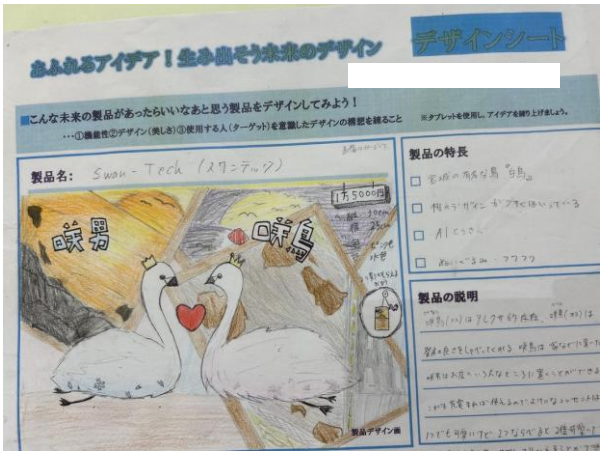


この展覧会は、人口消滅可能性自治体と指摘されている登米市を活気づけ、美術の力で地域の未来を切り拓くために、中学生が本気で考え、提案した作品を展示するプロジェクトです。会場には全校生徒の作品が並び、家族連れや地域の方々など多くの来場者をお迎えしました。

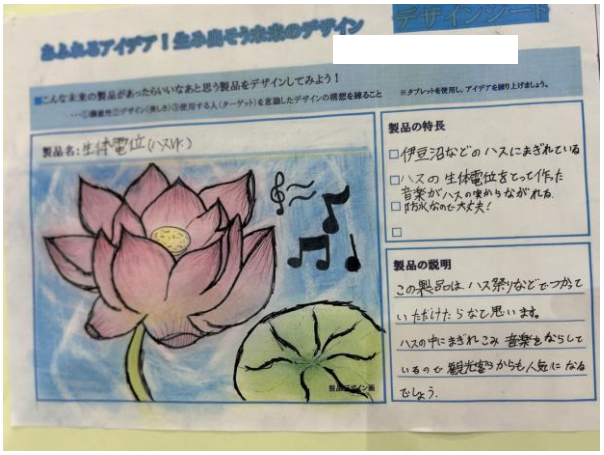
◆ 各学年の取組

２年生　地域の特産品となる「未来製品」のデザイン

登米市にゆかりのある素材・文化・自然をモチーフに、①機能性 ②デザイン ③ターゲット を意識しながら、「こんな製品があったらいいな」を具体的にデザインしました。



▲Swan-Tech（スワンテック）　白鳥×AIの未来製品



▲ 生体電位（ハス Ver.）　ハスの生体電位で奏でる音楽

３年生　登米市の良さをPRする「漫画制作」

登米市の自然・食・文化・歴史など、それぞれが「伝えたいこと」をテーマに、オリジナル漫画を制作しました。会場では壁一面に並ぶ漫画作品に、来場者も足を止めてじっくりと読み込んでいました。



▲　３年生の漫画作品展示　登米市の魅力を物語で伝えます



▲地域へ想いが込められた作品が壁一面に並びました

卒業生　登米市の未来のシンボルをつくる

ご当地キャラクターの提案と、観光スポットとなる抽象オブジェの制作に取り組みました。地域の精鋭画家サトウ・サトルさんの抽象画演習の経験も活かし、石による本格的な彫刻に挑戦しました。

【観光オブジェの制作】

直島の草間彌生さんのかぼちゃオブジェのように、「人々が訪れたくなるシンボル」を目指して制作。登米市の各地に設置することを想定した作品です。

【ご当地キャラクター提案】

はっとんだけでなく、登米市を全国に知ってもらうためのキャラクターを考案。食・自然・文化など様々な要素をもとに個性豊かなキャラクターが誕生しました。



▲設置場所をグーグルアースで決定し配置



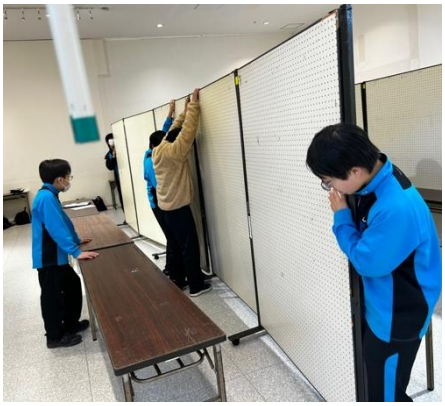
▲「水の里」を象徴するオブジェ



▲赤豚×セリのキャラクター



▲来場者が足を止めて鑑賞する姿も





▲学校を代表して準備、会場運営は総合文化部の生徒が行いました

◆ 中学生が描いた　登米市への願い

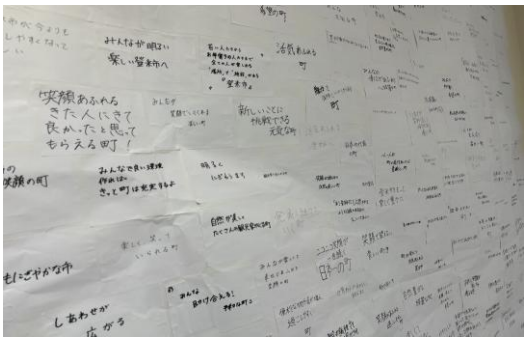
展覧会の入り口には、生徒一人ひとりが「登米市の未来への想い」を書いた言葉が壁一面に貼り出されました。

「笑顔あふれる　きた人にきて良かったと思ってもらえる町！」

「新しいことに挑戦できる元気な町」

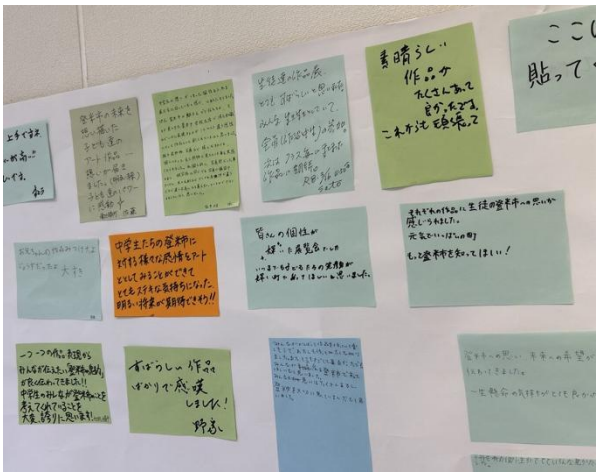
「ニコニコ笑顔が一生続く　日本一の町」

どの言葉にも、故郷・登米市を愛する気持ちが真っすぐに込められていました。



▲ *生徒たちの「登米市の未来」への想い*

◆ 地域の方々との交流・いただいたメッセージ



▲ *来場者が熱心にメッセージを書いてくださいました*



▲ *来場者の方からの温かなメッセージ。生徒の宝物になりました*

【地域の方からいただいた主なメッセージ】

「すばらしい作品ばかりで感嘆しました！中学生のみなさんが登米市のことを大変誇りに思っているのだと思いました。」

「素晴らしい！クオリティが高い。登米市の未来を想い描いた子どもたちのアート作品に感動しました。子ども達のパワーに感動！」

「中学生たちの登米市に対する様々な感情をアートとしてみることができて、とてもすてきな気持ちになった。明るい将来が期待できる！！」

「皆さんの登米市に関するいろいろな想いが感じられました。これからも登米市を盛り上げてくださいね。」

「それぞれの作品に生徒の登米市への思いが感じられました。元気でいっぱいの町。もっと登米市を知ってほしい。」

「みんなが伝えたい登米市の魅力がよく伝わってきました‼中学生のみんなが登米市のことを考えていることを大変誇りに思います。」

作品を通して、登米市の魅力をあらためて感じ、子どもたちの想いと地域の大人の想いが、この町の明るい未来への歩みを進める一歩となることを願います。子どもたちは今後、地域の方からいただいたメッセージをもとに、これからの地域を明るくする新たな作品づくりに励みます。今後の佐中生の新たな作品制作にもどうぞご期待ください。

文責　登米市立佐沼中学校　美術科　佐藤　英矢